

築城400年だより



新聞連載小説でよみがえる忠政

11月初旬スタート

名君の門

戦国武将 森忠政

皆木和義・作
上村真未・画

森忠政を主人公とする連載小説が11月から250回の予定で山陽新聞に登場します。築城400年記念で脚光を浴びている忠政の人物像や功績が物語で再現されます。

あらずし

ある少年が強烈な夢を描いた。将来は、天下に名だたる名君になりたいと。14歳だった。決意した朝、墨跡鮮やかに「名君夢飛翔」と書いた。その名を森忠政（後の津山藩主）という。最愛の兄の長可を小牧・長久手の戦いで亡くした翌朝だった。忠政は、織田信長の有力武将で美濃金山城主・森可成の6男だったが父も兄もすべて戦死していた。兄には、本能寺の変で織田信長といっしょに討ち死にした森蘭丸がいた。

たったひとりになった忠政が、多くの家臣とともに、戦国の激動の世をいかにして乗り越え、美作18万6、500石の国主大名（太守）になつたのか。豊臣秀吉、徳川家康・秀忠・家光とどう渡り合ったのか。忠政の名君への夢路が、信長、秀吉、徳川三代との絡み合いを通して描かれる。



たつたひとりになった忠政が、多くの家臣とともに、戦国の激動の世をいかにして乗り越え、美作18万6、500石の国主大名（太守）になつたのか。豊臣秀吉、徳川家康・秀忠・家光とどう渡り合ったのか。忠政の名君への夢路が、信長、秀吉、徳川三代との絡み合いを通して描かれる。



作者プロフィール

皆木和義さん

勝央町生まれ。早稲田大学法学部卒。経営コンサルタントとして活動する傍ら、気鋭の作家として文筆業に従事。少年時代より宮本武蔵にあこがれ、歴史の研究を始める。また、経済界のさまざまな研究会や勉強会などの代表世話人を務めるなど、財界に広い人脈を持つ。著書には「武蔵の学習力」「稲盛和夫と中村天風」「MBAビジネスプラン」など多数。現在「日経ベンチャー」に小説「楽土の商人」を連載中。



平成16年(2004)は津山城築城400年

津山城築城400年記念事業推進室 32 2023

みんなのミュージカル

石の記憶

君は忠政に逢えるだろうか

かつて津山城があった鶴山公園

少年ケン は謎の巨大な白フクロウに誘われ

不思議の世界へ入り込む

この世とあの世の境目でケンが見たものは…

築城400年記念を機に美作全域から集まったキャストが、津山城の石垣を舞台にした冒険物語を熱演します。

とき 10月31日(日)

昼の部 午後1時30分開演

夜の部 午後6時30分開演

ところ 津山文化センター

入場料 一般1、500円(当日1、800円)、4歳(高校生)800円(当日1、000円)

親子券(親子1人ずつ)2、000円(当日券なし)

無料託児あり(予約要)

入場券販売所 津山城築城400年記念事業実行委員会事務局(市役所2階)、グリーンヒルズ津山リージョンセンター、津山文化センター、ベルフオ

ーレ津山ほか

第3回ひと・ふれあい講演会

とき:11月7日(日)午後1時30分~3時 ところ:グリーンヒルズ津山リージョンセンター 演題:みんなの命 輝くために 講師:大谷昭宏さん(ジャーナリスト) 参加費:無料 問い合わせ先:市教委社会教育課 32-2119へ